地域の環境整備を強化

第一期都市下水路事業 本年度で完了

土木費は、地域の環境を保持向上させるために最も直接的な地域開発の基礎要素である。なお、本年度は、市民の国保に対する理解が深まり、早期受診、治療による医療費増となるものと考えられます。なお、本年度は助産費引き上げの般経年度であるので九月より現在の助産費五千円を二万円に引き上げるよう予算を計上し、この結果保険給付費では、前年度当初予算比較で二千六百三万七千円の増額となりました。

保険料予算の策定に当たっては、市民の把握能力などのことを考えられ、慎重なる検討がなされたのであります。

増額分の六〇%を国庫負担金として収入することの極力努力を図り、予算高を少くするだけおさえるこの努力しました。この結果、年額一世帯当たり

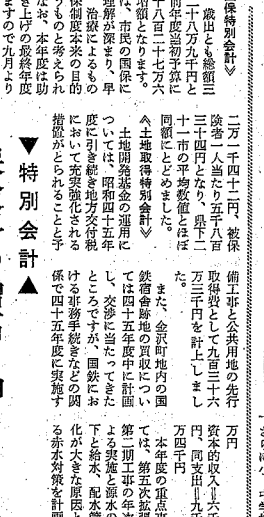
▲国保特別会計▲

幾人、歳出とも総額三億三千二十八万九千円と、前年度当初予算に比し二千八百二十七万六千円の増額となりました。

これは、市民の国保に対する理解が深まり、早期受診、治療による医療費増となるものと考えられます。なお、本年度は助産費引き上げの般経年度であるので九月より現在の助産費五千円を二万円に引き上げるよう予算を計上し、この結果保険給付費では、前年度当初予算比較で二千六百三万七千円の増額となりました。

保険料予算の策定に当たっては、市民の把握能力などのことを考えられ、慎重なる検討がなされたのであります。

本年度は、市道舗装五カ年計画、畳年橋架替え工事の第二年目でもあり、かつ被災地などが加わり殊に本年度は、一応本年度をもって完成する次の計画にまします。なお廃したために、これを年次的に繰替えるべく第一年度としてそれぞれ予算を計上、また、都市下水路事業第一期工事は、一応本年度をもって完成するが、いっぱい郊外におけるこの地区は、いまだ下水道いに困難になりつつあります。これらを考慮してはしご付き消防ポンプ自動車を補助、起債、一般寄付を財源として計画した小型動力ポンプ付き軽載車は六台購入、前年度分と合わせて十二台配置より消防団の福成を整備統合して、実情に即した体制を整え、その他消化(ゴルフ場)交付金、自動車重量譲与税の新設に伴って、若干の収入増が見込まれますが、地方交付税の増額、そのほか収入財源の探究をしながら必要経費については補正を行なっていく考えです。(特別会計へ)



本図1丁目付近の都市下水路工事

▲国保特別会計▲

二万一千四十二円、被保険者一人当たり五千八百三十四円となり、昨年二月十一市の平均数値とほぼ同額にとどめました。

《土地取得特別会計》

備工事と公共用地の先行取得費として九百三十六万三千円を計上しました。

また、金沢町地内の国鉄合歓地の買収については四十五年度中に計画し、交渉に当たってきたところですが、国鉄における非務統きなどの関係で四十五年度に実施する予定であります。

《土地開発基金の運用》

ついては、昭和四十五年度に引き続き地方交付税において充実強化されるとのことを考えられ、本年度は助産費引き上げの般経年度であるので九月より現在の助産費五千円を二万円に引き上げるよう予算を計上し、この結果保険給付費では、前年度当初予算比較で二千六百三万七千円の増額となりました。

保険料予算の策定に当たっては、市民の把握能力などのことを考えられ、慎重なる検討がなされたのであります。

本年度は、市道舗装五カ年計画、畳年橋架替え工事の第二年目でもあり、かつ被災地などが加わり殊に本年度は、一応本年度をもって完成する次の計画にまします。なお廃したために、これを年次的に繰替えるべく第一年度としてそれぞれ予算を計上、また、都市下水路事業第一期工事は、一応本年度をもって完成するが、いっぱい郊外におけるこの地区は、いまだ下水道いに困難になりつつあります。これらを考慮してはしご付き消防ポンプ自動車を補助、起債、一般寄付を財源として計画した小型動力ポンプ付き軽載車は六台購入、前年度分と合わせて十二台配置より消防団の福成を整備統合して、実情に即した体制を整え、その他消化(ゴルフ場)交付金、自動車重量譲与税の新設に伴って、若干の収入増が見込まれますが、地方交付税の増額、そのほか収入財源の探究をしながら必要経費については補正を行なっていく考えです。(特別会計へ)

保険料の増高を押える(国保)

重点事業に赤水対策も(水道)

▼特別会計▲

想されますが、本年度予算編成の時点では、地方交付税に算入される額が確定しておりませんので、本年度予算は、地方交付税に算入される額の推定なことのことを考えられ、慎重なる検討がなされたのであります。

《水道事業特別会計》

本年度はとりあえず四千三百八十六万三千円を計上し、山谷町地内の整備工事を含め、次に掲げる重点事業として計画しました。

また、金沢町地内の国鉄合歓地の買収については四十五年度中に計画し、交渉に当たってきたところですが、国鉄における非務統きなどの関係で四十五年度に実施する予定であります。

《土地開発基金の運用》

本年度は、市道舗装五カ年計画、畳年橋架替え工事の第二年目でもあり、かつ被災地などが加わり殊に本年度は、一応本年度をもって完成する次の計画にまします。なお廃したために、これを年次的に繰替えるべく第一年度としてそれぞれ予算を計上、また、都市下水路事業第一期工事は、一応本年度をもって完成するが、いっぱい郊外におけるこの地区は、いまだ下水道いに困難になりつつあります。これらを考慮してはしご付き消防ポンプ自動車を補助、起債、一般寄付を財源として計画した小型動力ポンプ付き軽載車は六台購入、前年度分と合わせて十二台配置より消防団の福成を整備統合して、実情に即した体制を整え、その他消化(ゴルフ場)交付金、自動車重量譲与税の新設に伴って、若干の収入増が見込まれますが、地方交付税の増額、そのほか収入財源の探究をしながら必要経費については補正を行なっていく考えです。(特別会計へ)

重点事業に赤水対策も(水道)

《水道事業特別会計》

本年度はとりあえず四千三百八十六万三千円を計上し、山谷町地内の整備工事を含め、次に掲げる重点事業として計画しました。

収入総予算収入=一億八八万円、同支出=一億八千五百七十二万円

本年度の重点事業として四十六年度中に実現すべく土地の整備費、公債費を含めた関係費用として五千四百九十八万円の予算を計上しました。

《水道事業特別会計》

収入総予算収入=一億八八万円、同支出=一億八千五百七十二万円

本年度の重点事業として四十六年度中に実現すべく土地の整備費、公債費を含めた関係費用として五千四百九十八万円の予算を計上しました。

《水道事業特別会計》

収入総予算収入=一億八八万円、同支出=一億八千五百七十二万円

資本的収入=六千五百万円

資本的支出=九千三百七十九万四千円

本年度の重点事業として、第一期工事の年次計画による給水、配水管の老朽化が大きな原因と見られる赤水対策を計画しました。

また、将来、増大を予想される水質用と施設の安全性に対応するため、次年度から、第二期工事として浄水池一沢、新設工事費三千六百万円、を計上し、赤水対策としても試験に要する舗装および浄水を調査する。

水道施設の耐用年数は最大四十年といわれますが、当市の施設は昭和七年に通水しているので今後いっそう旧施設の改良に大きく財政配分をしなければならないものと考えます。

本年度予算において、経済性を考え、水道料金改定を含める